

日本環境斎苑協会 創立50周年記念シンポジウム

火葬場管理のあるべき姿



奥村氏



玉寄氏



三木氏



横田氏



喜多村氏

◎ 出席者 ◎

コーディネーター

奥村 明雄氏 (日本環境斎苑協会理事長)

パネリスト

喜多村 悦史氏 (元東京福祉大学教授)

横田 勇氏 (静岡県立大学名誉教授)

三木 求氏 (日本火葬技術管理士会会長)

玉寄 将氏 (日本火葬技術管理士会副会長)

火葬場の近代化と運営管理の適正化に向けた調査研究や情報提供、教育研修、相談指導などに取り組む日本環境斎苑協会が今年、創立50周年を迎えた。10月23日、千葉市の幕張メッセで開かれた第36回全国火葬情報交換会では、それを記念して「火葬場管理のあるべき姿」をテーマにシンポジウムが開かれた。その概要を紹介する。

葬送に関する認識

奥村 これまで、日本環境斎苑協会では、いくつかの厚生労働科学研究を通じて、火葬場の近代化や安全管理課題を明らかにしてきています。変化してきていることを明らかにしてきています。

その第1は、火葬場の大型化。その第2は、大規模災害への対応。その第3は、有害物質問題や、ペーパースーパー問題など新たな課題。また、最近では、コロナウイルスへの対応です。そして、その第4は、これらを通じて、公害や環境問題に関し、火葬場の技術管理が大きな課題となってきたことです。

本日は、火葬場に関する学識経験者、火葬場の現場で火葬場の運営に携わる火葬技術管理士の皆さんにお集まりいただき、これまでの火葬場とこれからの火葬場に関し、意見交換をお願いします。まず、喜多村さんから、火葬場に関する法制度の現状、それが変わりゆく社会の中でかみ合わなくなってきたこと、火葬場の背景にある葬送の変化などについて冒頭にお話をいただきます。

喜多村 まず私の立ち位置について明らかにしたいと思います。火葬場に勤務したり、運営したりの経験はありません。

奥村 これまで、日本環境斎苑協会では、いくつかの厚生労働科学研究を通じて、火葬場の近代化や安全管理課題を明らかにしてきています。変化してきていることを明らかにしてきています。

その第1は、火葬場の大型化。その第2は、大規模災害への対応。その第3は、有害物質問題や、ペーパースーパー問題など新たな課題。また、最近では、コロナウイルスへの対応です。そして、その第4は、これらを通じて、公害や環境問題に関し、火葬場の技術管理が大きな課題となってきたことです。

本日は、火葬場に関する学識経験者、火葬場の現場で火葬場の運営に携わる火葬技術管理士の皆さんにお集まりいただき、これまでの火葬場とこれからの火葬場に関し、意見交換をお願いします。まず、喜多村さんから、火葬場に関する法制度の現状、それが変わりゆく社会の中でかみ合わなくなってきたこと、火葬場の背景にある葬送の変化などについて冒頭にお話をいただきます。

喜多村 まず私の立ち位置について明らかにしたいと思います。火葬場に勤務したり、運営したりの経験はありません。

死を悼み、葬送を行っていたの排ガスでダイオキシン類と申しました。親をおごそかに送ることが、自身に跳ね返ってくる。幾千もの世代、このサイクルを繰り返してきています。これはもうDNAに組み込まれた習性というべきであり、捨て去ってしまう人類が人類でなくなってしまう性質のものではないでしょうか。

日本環境斎苑協会は昨年3月、厚労省の支援を得て「取得ガイドライン」をまとめた。その際の考えの基盤になっているのは、いま申し上げた基本的な葬送に関する認識です。葬送の簡素化、実質化を求めるといっても、親の葬送自体を無意味なこと、不要なこと、声はあきません。死を悼むのは、おごそかに送ることが、自身に跳ね返ってくる。幾千もの世代、このサイクルを繰り返してきています。これはもうDNAに組み込まれた習性というべきであり、捨て去ってしまう人類が人類でなくなってしまう性質のものではないでしょうか。

先ほど奥村理事長から、火葬場の近代化や大型化、災害などの多数死亡が発生した場合の火葬場の対応、コロナなど感染力が強いウイルスを抱える遺体の火葬場の扱いなどの指摘がありました。それぞれ重要で解決していかねばならない問題です。その際重要なのは、親や縁者の葬送はどうな状況においても欠かさないものであること。逆に言えば、礼節を踏まえた葬送をするのは現代社会の構成員としての権利、すなわち社会保障制度に組み込まれるべきものとの認識が課題解決の共通項になると思います。

いかなる葬送方式をよしとするかにかかわらず、わが国の場合、遺体の処理はほぼ火葬のプロセスを欠かせません。そうであるが故に火葬場についてしっかり考えていく必要があると考えます。

火葬場の環境問題

奥村 次に横田さんから、火葬場の有害物質問題など火葬場の環境問題からの取り組みの必要性などについてお話します。

横田 火葬場の排ガス等につきましては、量的には少ないのですが、ばいじん、塩化水素、硫酸酸化物等の酸性ガスやダイオキシン類、水銀などを含んでいることが過去数年にわたって京都大学の武田信夫先生らによって行われた厚生労働科学研究の調査結果から明らかになっていきます。火葬場は、大気汚染防止法の対象外の施設となっていますが、地方自治体により公害防止目標値や環境保全目標値を独自に設定しているのが現状です。

武田先生らの研究の一例ですが、代表的な火葬炉4施設

住み良い豊かな環境を創る

株式会社 **開邦工業**

私達は、地域に寄り添う企業です。

代表取締役 玉寄 将

火葬炉の設計・施工、メンテナンス、機器点検から運転指導、斎場運営まで。

本社 / 沖繩県うるま市宇州崎7番地19 ☎ 098-934-2811

本店 / 沖繩県沖繩市泡瀬4丁目23番10号1B ☎ 098-923-2001

東京支社 / 東京都港区芝2丁目6番3号6階 ☎ 03-5730-3921

東北支社 / 宮城県仙台市泉区七北田字杉ノ田13番地7 207 ☎ 022-341-8095

プラント事業部 / 沖繩県沖繩市泡瀬4丁目23番10号1B ☎ 098-923-4220

関連設備機器修繕

火葬業務の受託

株式会社 **昌栄メンテ**

本 社：〒640-8318 和歌山市南出島28番 11
TEL (073) 473-7470
FAX (073) 473-7480

紀北営業所：〒649-7205 橋本市高野口町名倉936-3
TEL (0736) 42-2250

■ 営業種目

- 火葬業務 (火葬業務・関連機器運転保守管理・修繕)
- 耐火材打替業務 (火葬炉内耐火物製造・修繕)
- 自動ドア保守点検 (定期点検・修繕)
- 霊柩自動車運行業務 (霊柩自動車運転代行)
- 斎場施設管理

棺載台及び火葬用の台車
特許第4168067号
平成20年8月8日登録